

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成21年9月29日

【評価実施概要】

事業所番号	2274200373
法人名	(有)ホスピタルサービス
事業所名	グループホーム 清水三保の家
所在地 (電話番号)	静岡市清水区三保3503-74 054-336-8888
評価機関名	セリオコーポレーション株式会社
所在地	静岡市清水区迎山町4番1号
訪問調査日	平成21年6月29日

【情報提供票より】(平成21年6月15日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成15年8月15日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	人	常勤 19 人/ 非常勤 4 人/ 常勤換算	14.65 人

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨造り	
	3階建ての1階～1階部分	

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	¥50,000		その他の経費(月額)	光熱水費 ¥13,000
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有	¥200,000	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食		昼食	
	夕食		おやつ	
	または1日当たり ¥1,500			

(4)利用者の概要(平成21年6月15日現在)

利用者人数	25 名	男性	2 名	女性	23 名
要介護1	7 名	要介護2	3 名		
要介護3	8 名	要介護4	3 名		
要介護5	4 名	要支援2	名		
年齢	平均 81.2 歳	最低 64 歳	最高 93 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	有原医院、中根歯科
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設から6年、3ユニットのホームである。公園に隣接した立地を活かし、ADLの低下により外出が困難な利用者も車椅子を押してもらい天気さえ良ければ毎日散歩に出かけている。また各ユニットとも日曜以外は殆どの利用者が毎日入浴を楽しんでおり、外出支援と共にホームの特色として家族にも好評である。職員は向上心が強く、資格取得にも熱意を持って取り組み、現在8名の介護福祉士が生き生きと利用者の暮らしを支えている。食事については給食に頼らざるを得ない面もあるが、利用者の喜ぶ顔を励みに手作り食の回数が増してホームの特色のひとつとなることを期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回改善を求められた項目のうち理念については運営規程・契約書に地域密着型施設としての方針を謳っている。運営推進会議に地域委員の参加を働きかけ実現している。運営推進会議で災害時の取り組みについても徐々に話し合われている。看取りに関しては7月より看護師の訪問が始まるので今後の取り組みが期待される。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	昨年に引き続き、自己評価は全職員で取り組んでおり、多くの改善提案も盛り込まれている。評価を繰り返す中で職員は業務において意識しなければならないことをよく理解しまた振り返りの機会としている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	三保本町四区自治会長、三保本町四区民生委員、地域包括支援センター、入居者家族等をメンバーに3ヶ月に一度の開催が今年になって2ヶ月毎の開催となった。高齢者世帯が多い地域でもあり委員はホームへの関心も高く、地域の情報をもたらしたり災害時について共に話し合う等運営推進会議の場を活用している。また介護保険の改正時には説明もされ正しい認識の啓蒙を図っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営推進会議は家族の意見を引き出す機会として案内を出して参加を促している。ホームからの積極的な情報提供により家族の意見を確認して必要があれば関係者と話し合い迅速な対応を処している。また、介護支援専門員の入職により、今後介護計画作成時に家族の同席をお願いすることも提案されており、家族の意見を引き出す機会として実現されたい。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	今年から法人会員として自治会へ加入し、清掃活動等はホームの都合の良い時間に作業できるよう理解と配慮をいただいている。地域の祭りは屋台のやり取りも楽しく利用者は喜んで参加している。地元の利用者がいることから近隣の方から日常的に挨拶・声かけ或は面会と心を寄せてもらっている。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭的な環境の中でゆったりとした生活を、そして一人一人が役割を持ちながら楽しく暮らす、そんな「住まい」を目指します。私たちは、「ゆっくり」「一緒に」「楽しく」暮らせる、高齢者のための「第二の住まい」づくりをします。」を理念に掲げ、運営規程・契約書に地域密着型施設としての方針を謳っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は事務室内に掲示して職員への意識付けを図っている。職員は施設ではなく家庭の延長として利用者のペースで暮らせる支援に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	今年から法人会員として自治会へ加入し、清掃活動等はホームの都合の良い時間に作業できるよう理解と配慮をいただいている。地域の祭は屋台のやり取りも楽しく利用者は喜んで参加している。地元の利用者がいることから近隣の方から日常的に挨拶・声かけ或は面会と心を寄せてもらっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年に引き続き、自己評価は全職員で取り組んでおり、多くの改善提案も盛り込まれている。評価を繰り返す中で職員は業務において意識しなければならないことを理解しまた振り返りの機会としている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に一度の開催が今年になって2ヶ月毎の開催となっている。高齢者世帯が多い地域でもあり委員はホームへの関心も高く、地域の情報をもたらしたり災害時について共に話し合う等運営推進会議の場を活用している。また介護保険の改正時には説明もされ正しい認識の啓蒙を図っている。	○	今後運営推進会議へ職員が参加すること予定されており、議題の広がりが期待される。地域高齢者への貢献を望む職員の声も多く地域委員と連携して地域全体の高齢者の暮らしの向上に寄与されたい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者の生活について市との連携は欠かせず、きめ細かい情報交換に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月請求書や小遣い出納帳を家族訪問時に近況報告と共に手渡しており、訪問できない家族には郵送している。2ヶ月毎に発行している瓦版や運営推進会議の議事録も届けている。何よりも家族に来て見て納得していただけるよう努めている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議は家族の意見を引き出す機会として案内を出して参加を促している。ホームからの積極的な情報提供により家族の意見を確認して必要があれば関係者と話し合い迅速な対応を処している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	勤続年数が長い職員が多く、利用者との馴染みの関係が出来ている。担当は決まっているが日常では利用者も職員もオープンでの関わりにより個々への理解を深めており、職員異動がある場合もダメージを出来るだけ少なくするよう図っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人による研修システムがあり、全員が受講している。外部研修については受講料助成もあり職員個々に学びたい研修に参加している。また資格取得への意欲も高く、現在8名の介護福祉士を擁し、殆どがホームで受験資格を満たし合格しており、受験者へ過去の資料の提供等先輩からの応援・協力がある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内に展開する法人の系列事業所との交流は院内学会や忘年祭等行事参加により図られている。しかし職員が他の事業所と相互訪問等によりネットワーク作りや勉強会にまで繋げられるような取り組みには至っていない。	○	管理者は、他事業所との交流が今後の課題であると認識している。幸い地域の同業者からの声かけもあり、双方で調整しつつ協働により地域の介護サービスの質の向上に取り組んで行かれるよう期待する。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	居室の利用状況にも関わるのでお試し入居は可能ではないが、家族や関係者と話し合い利用者のこれまでの生活が出来るだけ継続できるよう、また馴染みの方に訪問していただき孤独感を抱かないよう個別支援に取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごししながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者を良く知ることにより役割を持つよう努めている。朝の散歩に他の利用者の車椅子を押してゆく利用者の姿が見られたが、ご本人は杖代わりに押しているので自分も助かることを楽しげに話して下さった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時に利用者の日々の状態、生活歴、希望や嗜好調査などアセスメントしており、日常の行動や会話からも希望や意向等把握できるよう努力されている。職員間でも希望を満たす支援を心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	3ヶ月に一度見直しをして、利用者がより良く暮らすための介護計画を作成している。職員は、利用者の日々の気づいた事、望む事、家族の要望を連絡帳に記載し、情報を共有し介護計画の作成に生かしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、定期的に評価され、日常生活での問題点や、状況の変化を見直し、職員間で話し合いがされている。介護計画は家族と共に相談・話し合っているが、利用者本人のみの確認で家族の署名や確認の記録がない計画書も散見された。	○	利用者や家族の事情で本人以外の確認が取れない場合もあるが、来所される家族には、利用者が認知症であることを踏まえ書式上での確認・記録が望まれる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて、受診や外出の支援等を一人一人その時々必要に応じて行なっている。管理者は、近隣住民の介護相談にも取り組む姿勢を持っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医に受診できるよう、支援ができています。協力医も車で1～2分の所で、緊急時の対応も的確連携体制が取られています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人の意向を尊重し、家族と話し合いながら、医療関係との連携システムが取られている。職員は、全員で情報を共有し、緊急時の対応もできています。	○	管理者は、ターミナルケアに前向きであり、今後、基本方針や、マニュアルの作成、職員研修に取り組む事を期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は、記録、書類等の個人ファイルは、施錠ができる事務所に保管している。職員はトイレ誘導も、さりげなく耳元で話すなど、プライバシーに十分配慮しての声かけが考慮されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者のペースを見守り、その日の気分や、状況を見ながら声かけをし、希望に応じての対応がされている。利用者の好きな将棋やパズルなどその人の持っている楽しみを引き伸ばしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の重度化に伴い手作り食から給食に変更した経緯がある。週に数回ある手作り食の日には利用者も下ごしらえ等できることに参加している。食事中は同じテーブルの利用者を気遣う利用者の姿も見られた。	○	手作り食を利用者が楽しみにしているとの話から、ユニットで連携をする等工夫によって手作り食の日が増えることを期待したい。食事の時は、職員も利用者と一緒に、食卓を囲み、楽しく食事が出来る雰囲気を作られるようお願いしたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、日曜日以外は毎日対応している。また、体調が思わしくない時は、清拭を行なっている。季節の湯もゆず湯、みかん風呂などを利用者に提供し、好評を得ている。入浴を好まない人も、温泉に行くと声かけをし、誘導の工夫も見られる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、利用者の生活歴等を十分把握しており、テーブル拭きや、食器拭きなど個々の能力を生かした役割を持てるよう、支援している。季節ごとの行事や、外出なども楽しみになっている。利用者の意欲を捉え、手すりを利用して脚力をつける運動に励む姿も確認できた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の散歩が、日課となり、近くの公園に出かけたり、本人の希望を取り入れ、コースや距離を決めている。散歩は、近隣の人達との交流につながっている。花見や、町内会の夏祭りなどに参加し、利用者の希望に添えるよう、外出の支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は日中、鍵をかける事の弊害を理解しているが、建物の構造上の問題や、利用者の精神的状況を考慮し、事故防止の観点から、施錠している。居室の鍵は、利用者の意思に任せている。	○	管理者や、職員の努力、工夫により、開放する時間を作るような取り組みを期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、年二回防災訓練を実施している。運営推進会議において、地域防災訓練には参加されておらず、地域の代表との話し合いの理解は得られているが、具体的な協力体制や、取り組みには至っていない。	○	災害時、地域の協力を得るためにも、地域の防災訓練に参加し、地域住民との関わりを更に深める努力を期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は、水分補給など個々の記録を記入し、水分不足にならないように、確認が徹底されている。食事は、利用者の状態に合わせて、お粥作りや、食事量等を調整して、一人一人の状態を的確に把握するよう努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂には、テーブルやソファ、テレビが置かれ、利用者が自由に過ごせるよう配慮されている。壁には、季節感のある飾り物や行事の写真が掲示されている。ユニットによっては利用者が飾り付けを好まないこともあり、状況に応じて利用者主体の空間作りを行っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者と職員の協働にて掃除、整頓されている。また、本人や、家族と相談しながら、利用者の馴染みの生活用品を持ち込んでいる。趣味の書道の作品、編み物の本、毛糸など或はファンである芸能人の写真に囲まれ、その人らしい環境の中居心地よく過ごしている。		